

事例報告①

讃岐国分二寺の調査成果と活用

渡 邊 誠（香川県教育委員会）

1 はじめに

1) 特別史跡讃岐国分寺跡

四国で唯一の特別史跡

主要伽藍や寺域を示す地割が良好に残り、調査によって僧房跡の建物の間取りが判明

初期の立体的整備の事例

2) 史跡讃岐国分尼寺跡

主要建物跡が良好に残っており、尼寺としては状況が良く分かる寺院跡

2 立地と環境

讃岐国分寺・国分尼寺は五色台と呼ばれる山塊の南に緩やかに傾斜する扇状地に立地し、国分寺は国分台、尼寺は猪尻山及び城山が寺の背景となる。特に、尼寺は伽藍中軸線の延長線上の近い場所に、城山という円錐形の山が位置する。

国分寺と尼寺は橋岡丘陵を挟んで約2km離れている。国府から国分寺までも約2km。国分寺瓦窯である府中山内瓦窯跡は国分寺から南西に1km。国府、国分寺、尼寺、国分寺瓦窯がすべて国史跡。

南に讃岐国府へと通じる南海道があり、国府へと向かう道すがら、国分寺平野伽藍山と六ツ目山の間の唐渡坂を抜けると、眼前に2つの寺院が目の前に見える。

3 これまでの主な履歴

| 和暦 | 年 | 西暦 | 出来事 |
|-----------|----|------|---|
| 天平 | 13 | 741 | 国分寺建立の詔 |
| 天平勝宝 | 8 | 756 | 諸国分寺に灌頂幡を頒下する（讃岐国含む） |
| 天平宝字 | 3 | 759 | 国分二寺の図を諸国に頒下する |
| | 5 | 761 | 諸国分尼寺に阿弥陀丈六像、脇侍菩薩像の二体作らせる |
| 平安時代 | | | この頃銅鐘の製作（国分寺） |
| 仁和 ～寛平 | 2 | 886 | 菅原道真が讃岐国司として赴任中に漢詩「法華寺白牡丹」を作成 |
| | 2 | 890 | |
| 永長 | 元 | 1096 | 諸国に条六の観音像を造立し、安置するよう命じる 木造千手観音立像の造立か |
| 鎌倉時代 | | | 現本堂の建立（国分寺） |
| | | | 塔跡に石造物を建立（国分寺） |
| 明德 | 2 | 1391 | 大和国西大寺の末寺となっている。（国分寺） |

| | | | |
|----|-------------------------|-------------------|---|
| 寛文 | 2 | 1662 | 高松藩初代藩主 松平頼重が南門建立（丸瓦の記念銘）（尼寺） |
| | 6 | 1666 | 法華寺鰐口（記念銘あり）（尼寺） |
| | 9 | 1669 | 高松藩初代藩主 松平頼重による修理（国分寺） |
| 元禄 | 8 | 1695 | 京都大覚寺の末寺となっている（国分寺） |
| | 年間 1688 ～ 1704 | | 高松藩 2 代藩主 松平頼常が本堂及び小庵を整備（尼寺） この頃、法華寺は国分寺の末寺（尼寺） |
| 寛政 | 7 | 1795 | 高松藩 8 代藩主 松平頼儀による観音堂建立（棟札）（尼寺） |
| 文化 | 5 | 1808 | 修理（国分寺） |
| | 11 ～ 14 | 1814 ～ 1817 | 高松藩 8 代藩主 松平頼儀による修理（国分寺） |
| 弘化 | 元 | 1844 | 長明寺住職隆乗が法華寺と称し、真宗興正派の寺院となる（尼寺） |
| 嘉永 | 7 | 1854 | 讃岐国名所図会に国分寺と法華寺が描かれている（国分寺・尼寺） |
| 明治 | 34 | 1904 | 木造千手観音立像（国分寺）が重要文化財指定 |
| | 37 | 1907 | 本堂（国分寺）が重要文化財指定（国分寺） |
| 大正 | 11 | 1922 | 『史跡名勝天然記念物調査報告』で現状報告（初の調査研究） |
| 昭和 | 3 | 1928 | 史跡指定（国分寺・尼寺） 2. 7 讃岐国分尼寺跡（32869.32 m ² ）（国史跡 10 件、特史 1 件） 3. 24 讃岐国分寺（76593.62 m ² ）（国史跡 37 件、特史 3 件） |
| | 18 | 1943 | 本堂の修理（国分寺） |
| | 19 | 1944 | 銅鐘（国分寺）が重要文化財指定（国分寺） |
| | 27 | 1954 | 讃岐国分寺跡が特別史跡に指定 |
| | 52 | 1977 | 住宅建設に伴う公有地化の開始（～現在も継続中） |
| | 57 | 1982 | 保存整備事業に伴う発掘調査開始（～平成 3（1991）年） |
| | | | |
| 平成 | 6 | 1994 | 讃岐国分寺跡の第 1 期保存整備事業完了 |
| | 18 | 2006 | 讃岐国分尼寺跡の発掘調査開始（～現在も継続中） |
| 令和 | 10 | 2028 | 指定 100 周年（まもなく） |

4 讃岐国分二寺跡の調査成果（各建物の規模は表 1 を参照）

| 項 目 | 讃岐国分寺跡 | 讃岐国分尼寺跡 |
|---------------|---|--|
| 伽 藍 配 置 | 大官大寺式 | 国分尼寺式 |
| 主 要 建 物 の 状 況 | 伽藍地 礎石建物及び区画施設が良好に残る 寺域 2 町（南限は不明） 寺域の西側に主要伽藍が偏在しており、東側に空地がある 寺院地 附属地を含めて東西 3 町、南北 4 町ほどを想定 | 伽藍地 金堂・講堂・尼房（坊）の礎石建物跡が良好に残る 寺域 1 町半（正確な範囲は不明） |
| 金 堂 | 4 間×7 間 現境内地に礎石（安山岩）及び基壇を良好に残る | 4 間×7 間 一部移動しているが、礎石（安山岩 19 個）残存及び基壇を良好に残る |
| 塔 | 3 間×3 間 現境内地に礎石（安山岩）及び基壇を良好に残る | — |

| | | |
|----------|---|---|
| 講堂 | 4 間×7 間 現本堂の礎石（安山岩）として再利用 | 4 間×7 間 礎石（安山岩）、抜き取り痕跡が残存 |
| 僧房 | 長大な東西棟 3 間×21 間 礎石（安山岩）が良好に残る 地覆石と呼ばれる構造材の配置や唐居敷座などの入り口を示す構造材の存在から、中央の大広間の左右に 12 の個室の間取りが判明し、全体で 24 の個室を推定 | 長大な東西棟 3 間×15 間 礎石（安山岩と凝灰岩）及び抜き取り等の痕跡を南北 3 間×東西 9 間分確認 床梁の地覆か基壇の羽目石と考えられる礎石が出土 |
| 中門 | 現仁王門が中門の礎石を再利用していると想定 | 不明 |
| 南大門 | 不明 | 不明 |
| 回廊 | 構造は不明であるが、金堂から中門を繋ぐ雨落ち溝を確認 | 不明 |
| その他の建物 | 僧房跡東側で鐘楼跡とされる礎石建物跡（2 間×3 間） 講堂跡西側に南北棟の掘立柱建物跡（4 間×7 間）を確認 | 不明 |
| 区画施設 | 北、東、西で築地塀跡確認 東に大溝を確認 | 西を区画する溝を確認 |
| 寺院地の施設 | 寺域西側に南北棟の掘立柱建物跡（4 間？×7 間）を確認 | 不明 |
| 条里との関係 | 条理地割に一致 | 条理地割に一致し、特に伽藍中軸線が条理地割と一致 |
| 軒瓦 | 軒丸瓦 讃岐国内の宝幢寺の瓦をもとに創出された文様と平城宮式に類似するものがある 創建瓦として多様な文様を使用 一本作りあり 軒平瓦 東大寺式と呼ばれる文様から創出される 唐招提寺の瓦に類した文様もある 一枚作りあり | 軒丸瓦 国分寺瓦等をもとに新たな文様を創出 国分寺瓦はほぼ利用しない 一本作りあり 軒平瓦 国分寺瓦と同様なものを利用するが、初期のものは、国分寺瓦の一部改変して文様を創出 一枚作りあり |
| その他の出土遺物 | 瓦埴類 軒瓦などの瓦類（古代～近世）、鬼瓦、埴 土器類 土師器、須恵器（古代～近世）、三彩陶器？、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、近世陶磁器 金属製品 鉄釘等の鉄製品、銅製品 | 瓦埴類 軒瓦などの瓦類（古代～中世）、鬼瓦、埴 土器類 土師器、須恵器（古代～中世前半）、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、近世陶磁器 金属製品 鉄釘等の鉄製品 |

5 活 用

1) 情報発信

調査研究による新たな視点と不断の見直し（資料の再発掘や見直し）

→本質的価値の顕在化・更新

2) 現代社会における史跡の活用

- ・昭和 58 ～平成 8 年度の保存整備事業

僧房跡の復元と公開施設の建設、築地堀跡の復元、伽藍配置模型（石造）の設置、そのほか遺構明示の設置、ガイダンス施設として讃岐国分寺跡資料館の建設などを実施。

- ・学校教育・生涯学習の場としての活用

讃岐国分寺跡資料館を拠点として、企画展の開催、各種講座の開催

- ・「史跡まつり」（20 回）の開催

- ・平成 12 年以降、毎年 11 月第一日曜日に開催。地元の実行委員会による運営

- ・力餅、天平行列、サヌカイトの演奏、餅投げ etc

6 おわりに～今後の課題～

1) 国分寺研究の可能性

- ・古代最後の国家直営の巨大モニュメントとしての国分寺・国分尼寺が語ることは古代日本を考える上で重要な意味がある。また、創建の年代だけでなく、その後の仏教拠点としての歴史の解明（創建だけが国分寺研究ではない！）
- ・古代仏教の地方拠点、その後の地方における仏教史を考える上で果たした役割の解明
- ・地方における拠点（政治・経済・地域社会）としての歴史の解明

2) 史跡公園の機能

- ・史跡の性格や周辺環境に応じた整備の実施
- ・時代に応じた価値の伝え方や空間整備
- ・持続可能な方法での史跡地の維持管理

■主要な参考文献

- 飯塚吾郎蔵・藤井正巳 1944「讃岐国分寺考」『考古学雑誌』34－5 日本考古学会
稲垣晋也 1987「南海道古瓦の系譜」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
香川県教育委員会 1983『史跡讃岐国分尼寺跡 第2次調査報告』
香川県教育委員会 2019『讃岐国府跡』2
梶原義実 2010『国分寺瓦の研究』名古屋大学出版
亀田修一 1990「瓦からみた国分寺の造営」『考古学ジャーナル』No318 ニューサイエンス社
国分寺町教育委員会 1984『特別史跡讃岐国分寺跡』昭和 58 年度発掘調査概報
国分寺町教育委員会 1985『特別史跡讃岐国分寺跡』昭和 59 年度発掘調査概報
国分寺町教育委員会 1986『特別史跡讃岐国分寺跡』昭和 60 年度発掘調査概報
国分寺町教育委員会 1987『特別史跡讃岐国分寺跡』昭和 61 年度発掘調査概報
国分寺町教育委員会 1992『特別史跡讃岐国分寺跡』平成 3 年度発掘調査概報

国分寺町教育委員会 1996『特別史跡讃岐国分寺跡保存整備事業報告書』
妹尾周三 2017「讃岐国分尼寺の創建期軒瓦とその特徴について」『史跡讃岐国分尼寺跡』
高松市教育委員会 2007『特別史跡讃岐国分寺跡・如意輪寺窯跡・国分中西遺跡・兔子山遺跡』
高松市教育委員会 2017『史跡讃岐国分尼寺跡』
高松市教育委員会 2018『特別史跡讃岐国分寺跡』Ⅰ遺構編
高松市教育委員会 2019『特別史跡讃岐国分寺跡』Ⅰ遺物編①
高松市教育委員会 2020『特別史跡讃岐国分寺跡』Ⅰ遺物編②
松本忠幸 2009「出土瓦から見た讃岐国分寺の創建」『佛教芸術』303号 毎日新聞社
松本忠幸 2015「古代の讃岐国分寺・国分尼寺について」『佛教芸術』339号 毎日新聞社
松本豊胤 1987「讃岐」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
渡部明夫 2013『讃岐国分寺跡の考古学的研究』同成社
渡邊誠 2018「讃岐国分寺跡と国分尼寺跡の調査」『遺跡学研究』第15号 日本遺跡学会

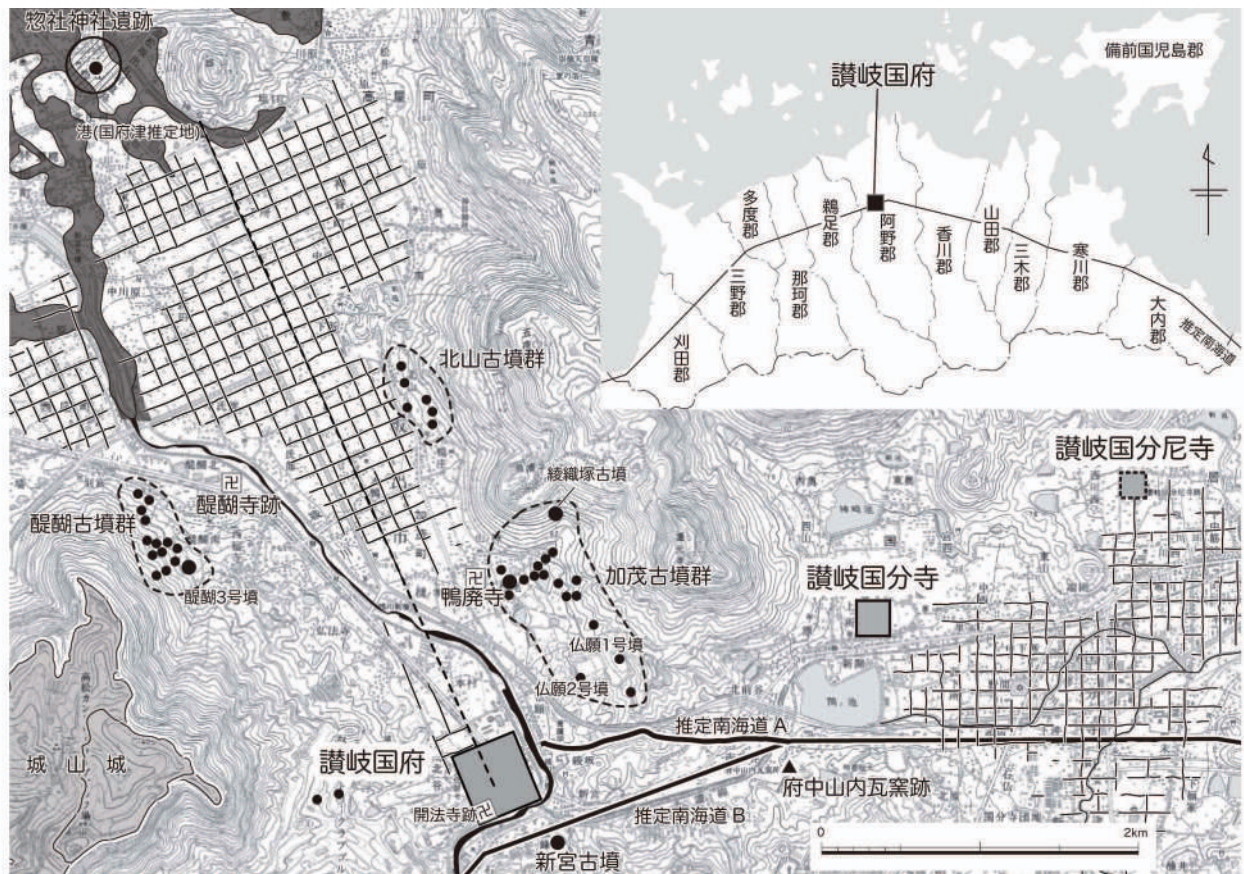


図1 讃岐国分寺跡・国分尼寺跡の位置(香川県教育委員会2019 より)

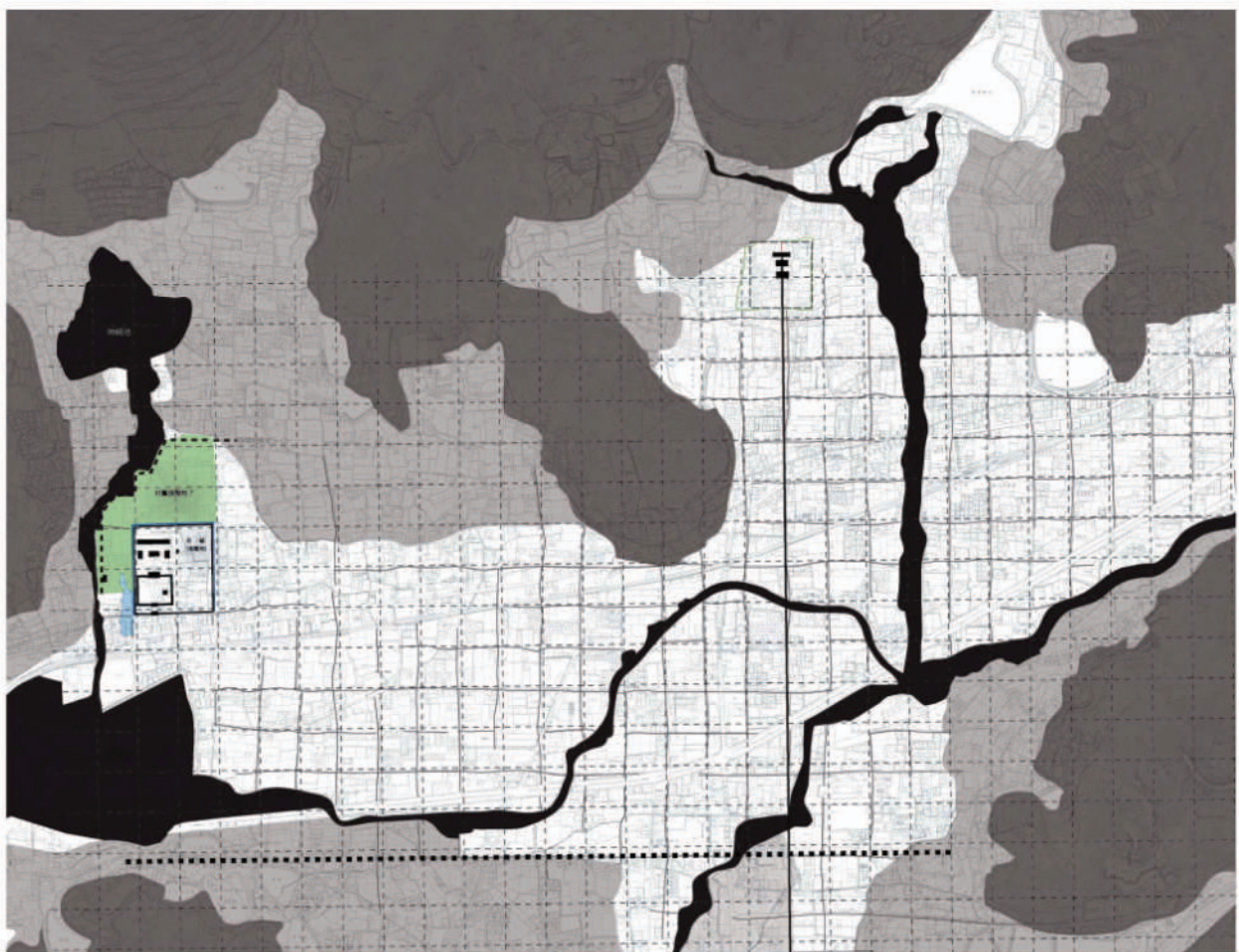


図2 讃岐国分寺跡・国分尼寺跡の周辺環境(高松市教育委員会2017より)



図3 讃岐国分寺跡周辺の状況(高松市教育委員会2018より)



図4 讃岐国分寺跡の調査箇所(高松市教育委員会2018より)

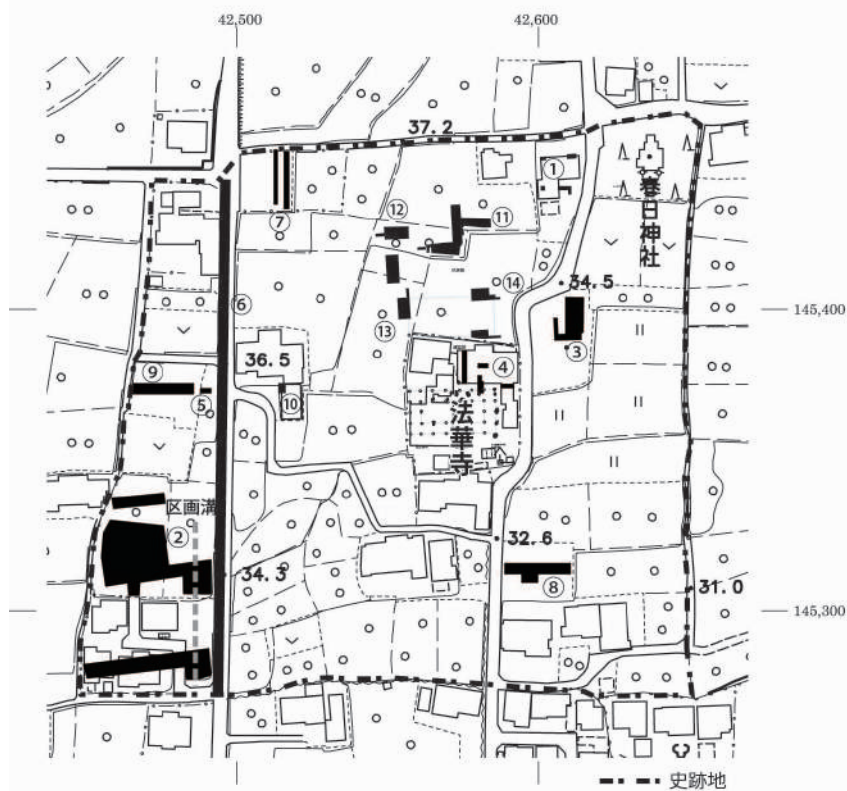


図5 讃岐国分尼寺跡の調査箇所
(高松市教育委員会2017より)

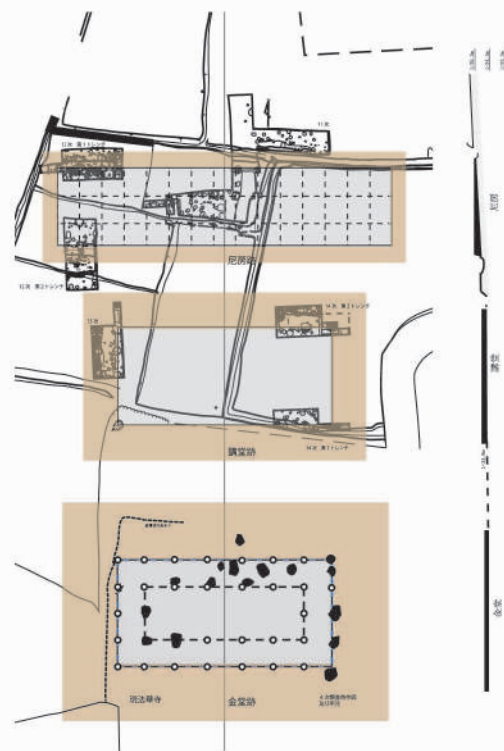


図6 讃岐国分尼寺跡の主要建物
(高松市教育委員会2017より)

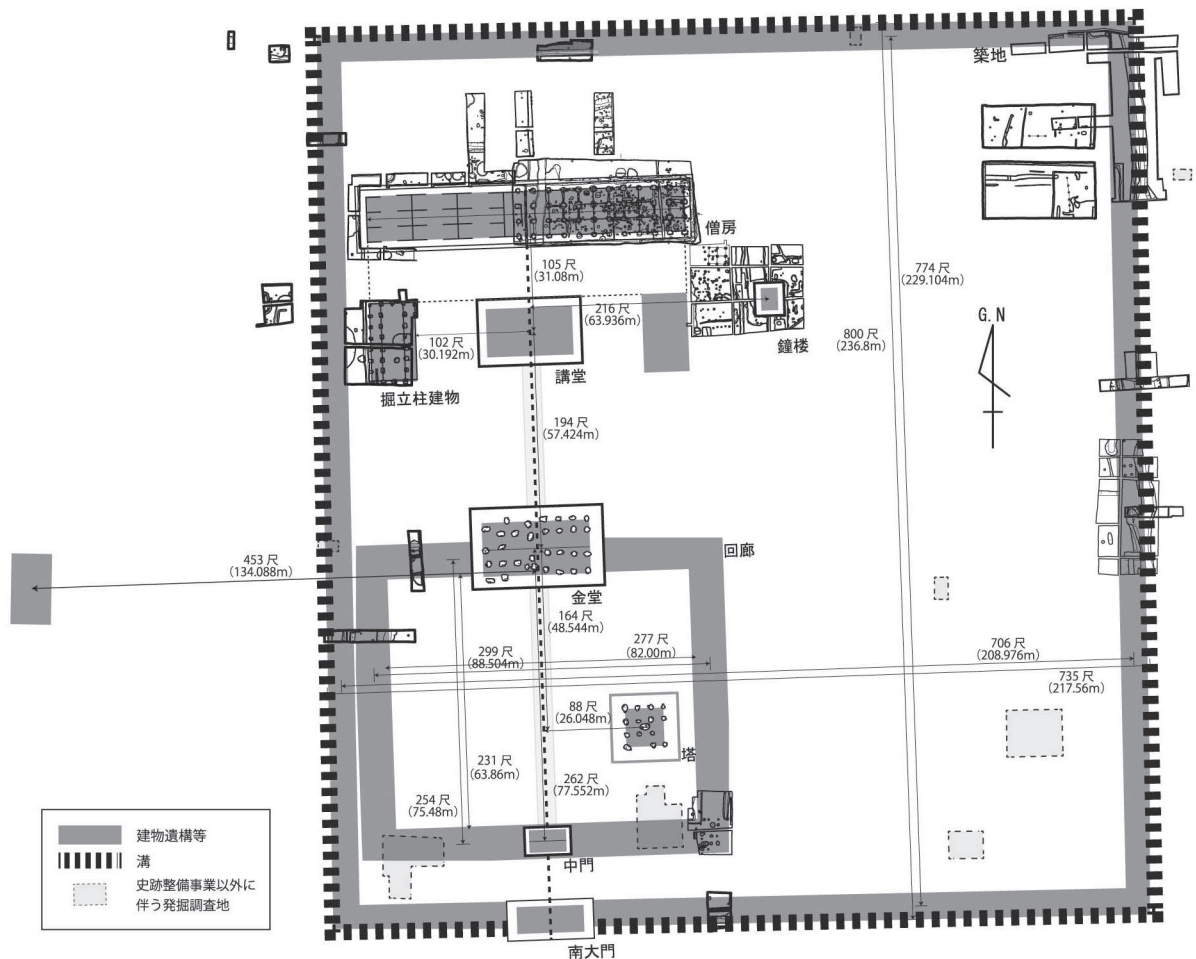
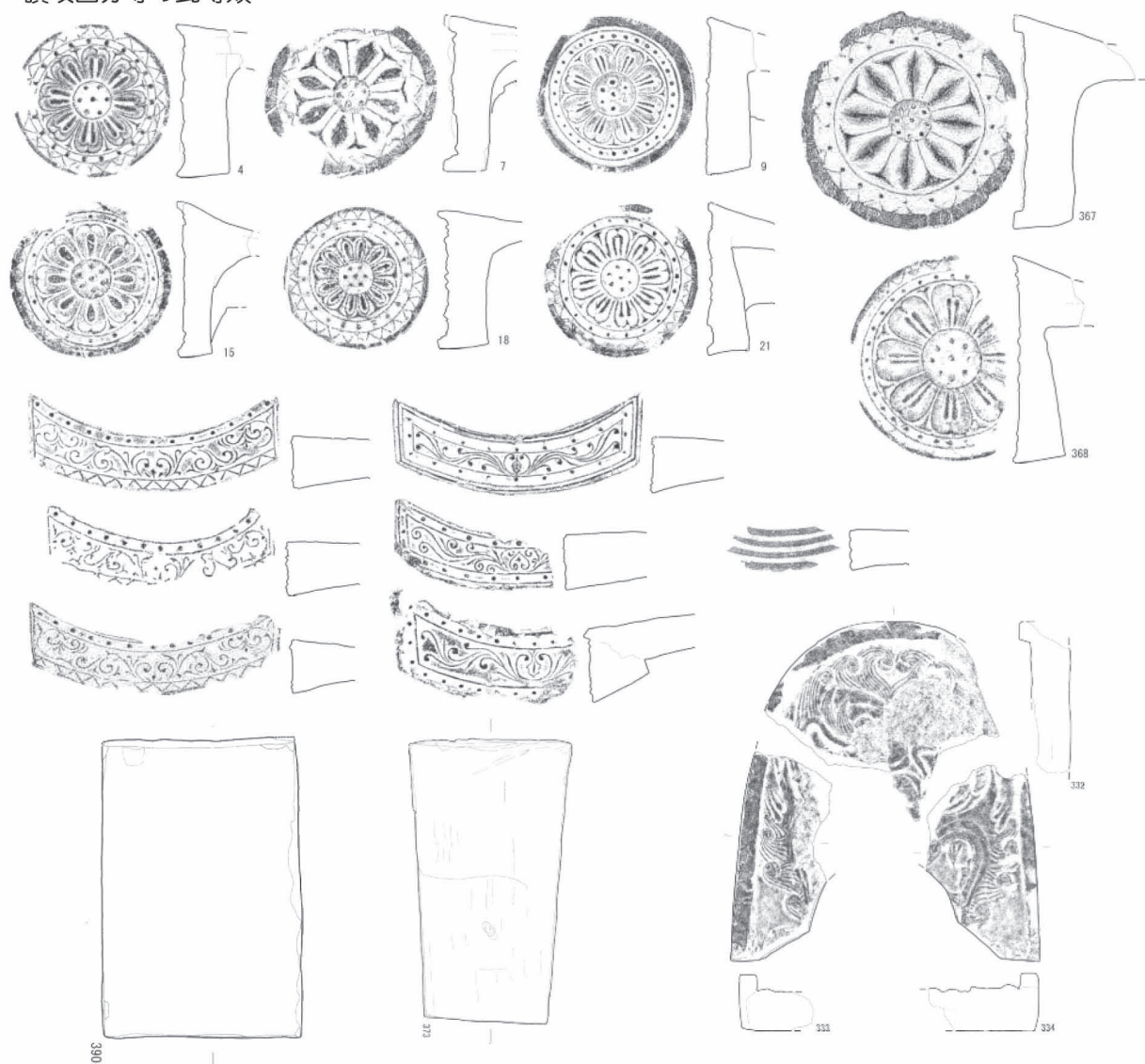


図7 讃岐国分寺跡の伽藍配置(高松市教育委員会2018より)

表1 讃岐国分寺・国分尼寺跡の主要伽藍建物の規模と造営尺(高松市教育委員会2018より)

| 堂 宇 | | 柱間寸法 | | 基 壇 規 模 |
|------------|-----|--|----------------------------|-----------------------|
| | | 桁 行 | 梁 行 | |
| 金堂 | 国分寺 | 【飯塚・藤井、福家、松浦説】 94尺 (12+13+14+16+14+13+12) 【堀井説】 95尺 (12+13+15+15+15+13+12) 96尺 (12+13+15+16+15+13+12) (推定) | 48尺 (12×4間) | 118尺×72尺 (推定) 磚積基壇 |
| | 尼 寺 | 96尺 (推定) 【堀井説】94.5尺 (12+12+15.5+15.5+15.5+12+12) | 【堀井説】51尺 (12.5+13+13+12.5) | 118尺×72尺 (国分寺による推定) |
| 塔 | 国分寺 | 34尺 (11+12+11) | 34尺 | 60尺四方 (推定) |
| | 尼 寺 | — | — | — |
| 講堂 | 国分寺 | 77尺 (10+10+12+13+12+10+10) | 43 (10+11.5+11.5+10) | 不明 |
| | 尼 寺 | 96尺 (不明) | 44尺 (11+11+11+11) | 112尺×60尺 (推定) |
| 僧房 | 国分寺 | 283.5尺 (13.5×21間) | 40.5尺 (13.5×3間) | 297尺×54尺 |
| | 尼 寺 | 150尺 (10×15間：推定) | 35尺 (11+13+12) | 158尺×42尺 (推定) |
| 中門 | 国分寺 | 33尺 (10+13+10) | 20尺 (10×2間) | 不明 |
| | 尼 寺 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 南大門 | 国分寺 | 不明 | 不明 | 不明 |
| | 尼 寺 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 《参考》 | | | | |
| 鐘樓 | 国分寺 | 20尺 (7+7+6) | 15尺 (7.5×2間) | 30.5尺×24尺 |
| 掘立柱建物 | 国分寺 | 70尺 (10×7間) | 40尺 (10×4間) | 不明 |
| 回廊 | 国分寺 | 不明 | 基壇から12尺程度 | 幅18.5尺 |
| 寺域 (築地) | 国分寺 | 築地 芯々間：東西706尺 (約209m)、南北774尺 (約229m) 溝 芯々間：東西735尺 (約217m)、南北800尺 (約236m) | | 本体基底幅6尺 基底部幅15尺 |
| | 尼 寺 | 不明 (推定：東西560尺 (約166m)) | 不明 | 不明 |
| 基準尺 | 国分寺 | 1尺=0.296m | | |
| | 尼 寺 | 1尺=0.296m | | |

讃岐国分寺の瓦塼類



国分尼寺跡の瓦塼類

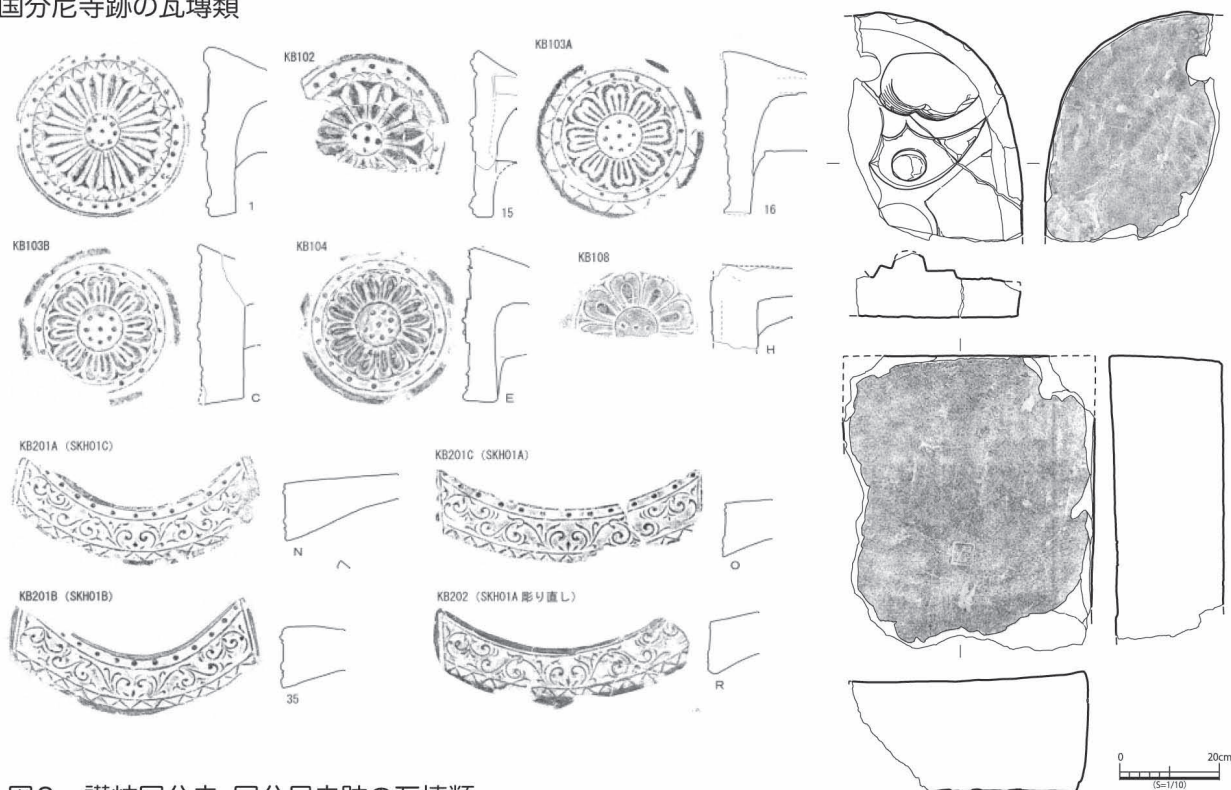


図8 讃岐国分寺・国分尼寺跡の瓦塼類
(高松市教育委員会2017・2020より)

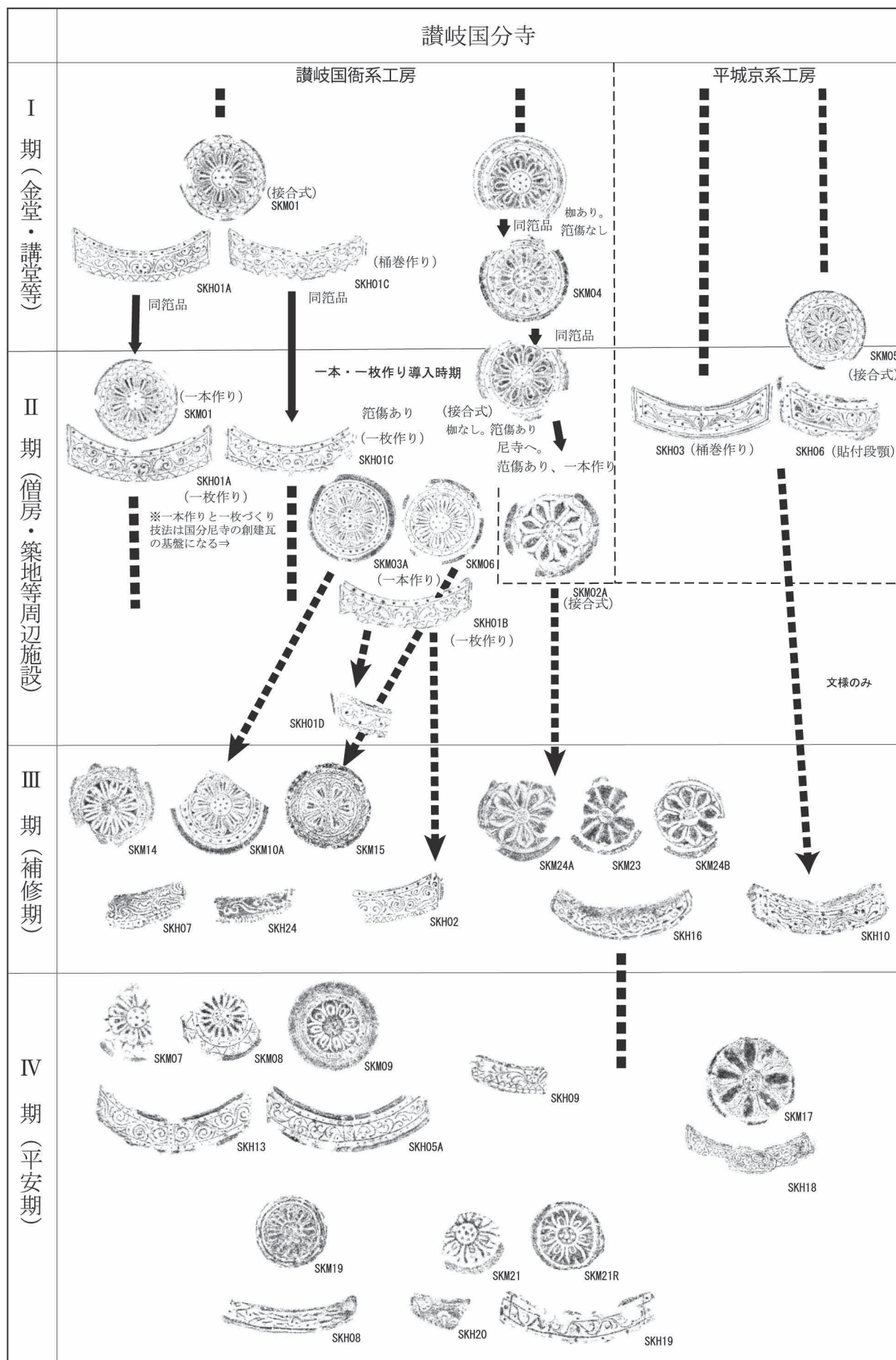


図9 讃岐国分寺の軒瓦編年案(高松市教育委員会2020より)



写真1 讃岐国分寺跡出土資料①
 (高松市教育委員会2019・2020より) *写真資料については高松市教育委員会の許可を得て使用しています。



緑釉陶器③



灰釉陶器

国分
金光明



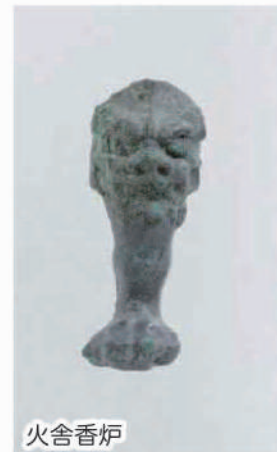
文字瓦



十歳?



伏瓦



火舎香炉



銅製品



鉄製品

写真2 讃岐国分寺跡出土資料②(高松市教育委員会2019・2020より)

*本資料の写真資料については高松市教育委員会の許可を得て使用しています。無断での転載はおやめください。